

平成 30 年度第 4 回広島県公立大学法人評価委員会の概要

- 1 開催日時：平成 31 年 3 月 15 日（金）9:00～10:00
- 2 開催場所：サテライトキャンパスひろしま 503 会議室
- 3 出席委員：曾余田委員長、木原委員、山川委員、福田委員
- 4 議 題：公立大学法人県立広島大学 第三期中期計画（案）について

【主な意見（○委員・●事務局）】

- 用語について、No.3 など随所に出て来る「教育課程」「教育プログラム」「カリキュラム」を使い分けている理由が分かり難いため、整理した方がよい。
- No.67 の「キャリア・アドバイザー・ボード」が 1対1 のメンター的なものを意図しているのであれば、「委員会」等を意味する「ボード」という用語が適切なのか。
- 表記について整理させていただく。
- No.46 の留学生寮の確保について、新大学設置の初年度からしばらくの間は、寮費の収入が伸びないことになるが、収入確保策について、どのように考えているか。
- 県立広島大学の留学生や日本人学生を含め、新大学の留学生以外の利用も予定しており、入寮率を高めて、収入を確保するよう、県大で検討している。
- 第三期中期目標の「基本的な考え方」において「本県経済を持続的に発展させ、地域の活力を維持していく」とあり、新大学の卒業生が県内企業に就職し、地域経済発展のために活躍することが期待されるが、官と民が協力して、そのための仕組みづくりを検討していければよい。
- 多様な主体との連携を可能とする「プラットフォーム」構築（No.47）の取組において、企業等との連携を進め、在学中から、学生と企業等がリレーションを構築することとしている。
- インターンシップの実施について、受け入れる企業側と派遣する大学側双方が、よりよい方法について、もっと検討していく必要がある。
- 新大学においては、クォーター制（4 学期制）を導入し、従来の 2 週間程度の短期間のものでなく、3 か月単位のインターンシップの実施を考えている。
- 新大学における教育内容については十分書かれているが、実施するための教育環境の整備について、より具体的に書き込む必要があるように思う。
- 「プラットフォーム」の構築は、これまでにないユニークな取組になると期待されるが、名称については、一般名詞である「プラットフォーム」を用いるのではなく、独自のネーミングをするよう工夫すれば、特色を出せると思う。
- 新大学に係る教育環境の整備については、ICT の専用ルーム、PBL のための自習やプレゼン用のスペース、留学生と日本人学生が恒常的に交流する場の設置等を考えている。
- そうしたことは、計画にしっかりと書き込んだ方がよい。「プラットフォーム」のための専用スペースを設けることが計画に書いてあれば、大学と社会を繋ぐ場をつくるという意図がはっきりと見えてくる。
- 新大学では、実践的な教育に力を入れることとしており、専門性にこだわらない教育を行うのであれば、専門性に担保されない分、教育の質をいかに保証していくのか、何を「知の基盤」とするのか、十分な検討と説明が必要である。併せて、実務家教員や外国人教員を採用する場合、教員の質や力量をいかに高めていくかが課題となる。

- 新大学については、来年度予定している設置認可申請に向け、具体的なカリキュラムや教員研修等の内容を詰めているところであり、今後、先行採用教員を交えて議論し、数値目標の設定と併せ、整理していきたい。
- 新大学の設置は、新たな領域に踏み込む画期的な取組と言えるため、今後の先進例になるよう、十分に議論して進めていただきたい。
- かつては、大学は企業や産業界とは距離を置くべきとの考えもあったが、公立大学としての在り方として、この点について議論はなされているか。
- 大学は学問を追求する場であると同時に、人材育成という面を見た場合、人材を社会に送り出す最終段階としての役割があり、そのような観点からも、企業を含む社会との連携・協力は必要であると考えている。
- 新大学が育成しようとしている人材像が、「汎用的能力を持った専門職」というようなものである点はイメージできるが、汎用的能力というものは、内容と組み合わせ、はじめて生きて来るものであり、新大学で描いている人物像が、どのような領域で活躍していくのか。
- 現在、カリキュラムについて検討しているところであるが、国連のSDGsの17項目を3つの視点でまとめ、それを横串として教育課程を組み、この3つの中から学生が専門分野を選んでいくよう考えている。

⇒ 今回の委員意見の計画案への反映について、委員長に一任の上、事務局と詰めることで了承。